

第3種 登別漁港
(北海道登別市・白老町)

のほりべつ

登別地区特定漁港漁場整備事業計画

胆振太平洋圏域
流通拠点



登別・白老(虎杖浜)地域マリンビジョン策定(モデル地域)

現状と課題

- ・スケトウダラの陸揚げ、網外し等の作業は、厳冬期において野天で狭隘な状況下で行われているとともに、異物混入や卵巣凍結等の品質低下が懸念されている。
- ・岸壁等の老朽化が著しく、災害時には倒壊による機能消失が懸念されている。また、津波に対しては、漁港における一時避難機能や避難経路の確保が必要である。
- ・荒天時には、越波や港内擾乱が発生し、静穏度対策が急務である。

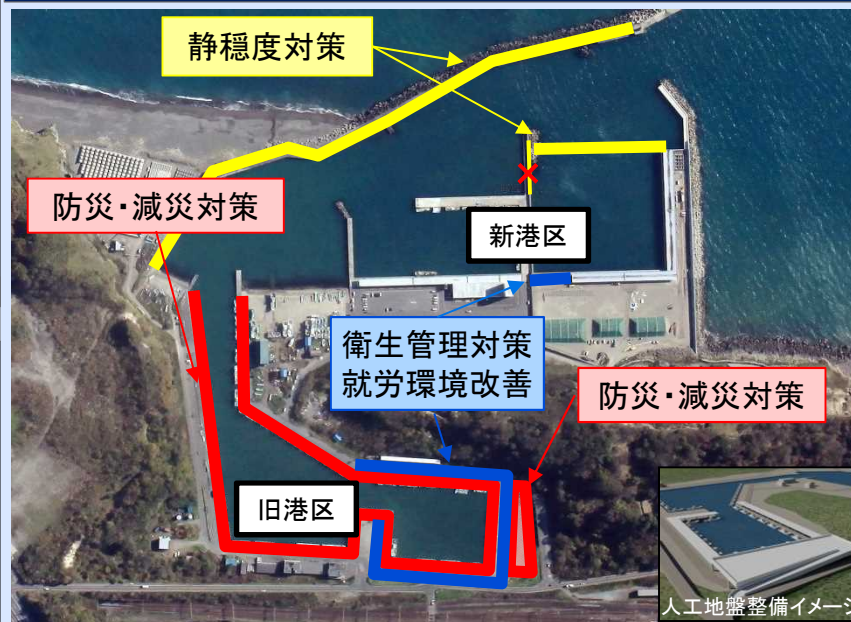
港勢 (H30港勢調査)

登録漁船: 60隻
 利用漁船: 140隻
 (内、外来漁船: 79隻)
 属地陸揚量: 6,575トン
 属地陸揚金額: 17.3億円
 主な魚種: スケトウダラ、サケ類
 組合員数: 82人

◎登別漁港の役割

- ・道内外からのイカ釣り漁業、スケトウダラ刺網及びサケ定置網等の沿岸漁業の流通拠点

主要対策



主な整備方針

- ・陸揚げから出荷に至る一連の作業において、総合的な衛生管理対策の強化を図るとともに、厳寒期の就労環境改善に資する屋根付き岸壁の整備を行う。
- ・地震災害発生後、水産業の早期再開を可能とするため、耐震性を備えた岸壁等の整備を行う。また、用地不足による狭隘解消を図るとともに、津波来襲時における一時避難機能の確保に資する人工地盤等の整備を行う。
- ・新港区の静穏度向上により、漁業活動の安全確保を図るため、防波堤等の整備を行う。

基本事項

全体事業費: 73.7億円
 事業期間: H25~R4

主要な対策①: 衛生管理対策・就労環境改善



主要な対策②: 防災・減災対策

津波来襲時の漁港内浸水状況

